

■8月8日

国交省、航空身体検査基準、一部改訂へ

国交省は、航空機の運航乗務員に対する航空身体検査証明を発行する際の身体検査基準と身体検査マニュアルについて、国際的な動向や最新の医学情報や検査技術などの知見を取り入れて検討した結果、一部を改正する方針を固めた。

例えば、視力を矯正するレーシック手術を受けた者にも門戸を開くことにした。また、エアライン・パイロットに必要な第1種身体検査証明の現行基準では、妊娠していないことや腎臓や肝臓の移植を受けていないことを条件としているが、今後は安定期の妊婦や移植を受けた人でも適合とする考えだ。

同省では、航空法施行規則や、航空身体検査マニュアルを改正、10月上旬にも公布・施行する。

(日刊航空)8/8

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0808-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0808-02.pdf>)

ジェットスター・ジャパン(LCC)、総搭乗者数200万人突破の見込み

ジェットスター・ジャパンは7日、今月13日にも同社の総搭乗者数が200万人を突破する見込みになったと発表した。

同社は、昨年7月3日の就航以来、成田空港を拠点に路線を拡大しており、現在は13機で14路線を運航、就航1年間の平均搭乗率は72%で推移している。

(日刊航空)8/8

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

政府専用機、後継機選定に3条件、ボーイング777が有力視

政府は7日、皇室や首相の海外公務などに使う政府専用機の検討委員会を開き、現行の「ボーイング747—400」の後継機を2019年度から運航するため、防衛省が導入費用を来年度予算に計上することを決めた。

また選定にあたり以下3条件を纏めた。(1)アメリカ東海岸への直行が可能(2)貴賓室や執務室などが確保できる(3)将来も民間企業による整備体制が確保できる。

現行機は機体の整備を担当してきた日航が18年度に整備を終了することになっている。同型機2機体制で引き続き運用する方針も示しており、後継機には「ボーイング777」が有力視されている。

(日経)8/7

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS0703P_X00C13A8PP8000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS0703P_X00C13A8PP8000/)

エジプト航空、成田線、運休を10月末まで延期

エジプト航空は5日、成田—カイロ線の運休を10月26日まで延長することを決定した。当初は8月28日まで運休としていたが、エジプトの情勢不安による需要の低下が続いているため、運休を継続することとなった。10月27日以降については現在未定。

関空—カイロ線(週2便で運航)については、ほとんどがカイロ経由の欧州行きの需要であることから、運航を継続。現在もほぼ満席で運航しているという。

(トラベルビジョン)8/7

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58525> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58525>)